

## 「音楽教育の指導と評価」

大熊信彦

### I 音楽教育の実践課題

#### (1)はじめに

音楽科、芸術科（音楽）（以下「音楽」という）の学習指導要領は、これまでの実践の成果を生かし、教育基本法や学校教育法の改正などで規定された教育理念を踏まえ、音楽教育に求められる今日の課題に対応するように改訂した。

特に、〈指導のねらいや手立てを明確にし、子どもが感性を高め、思考・判断し、表現する一連の過程を大切に学習指導〉を重視している。このことが、これからの音楽教育の指導と評価を考える根幹となる。

#### (2)すべての子どもが学習する内容

新学習指導要領では、指導内容の全体構成について、表現領域は歌唱、器楽、音楽づくり・創作ごとに指導事項を示し、さらに、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要な〔共通事項〕を新設した。（高等学校においては〔共通事項〕に相当する事項を各領域・分野の中に示した。）

このことを踏まえ、すべての子どもが学習する内容を明確にした指導計画を作成して、それを授業に生かしていくことが重要な実践課題である。

#### (3)創作と鑑賞の指導

創作の指導については、小学校では名称を「音楽づくり」とし、子どもが感性や創造性を働かせて、音遊びや即興的な表現、音を音楽へと構成していく活動などを行うことを示した。中学校では、指導内容を「旋律をつくる学習」と「音素材の特徴、反復、変換、対照などの構成を生かした創作の学習」に絞り込み、高等学校の「音楽Ⅰ」等では、「旋律・和音等」、「音素材・構成原理」、「変奏・編曲」のうちから、生徒の特性等を考慮し一つ以上を選択できるようにした。そして、「即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成する体験を重視すること」を配慮事項に示した。

また、鑑賞の指導については、小学校では「音楽を味わって聴くようにする」ことを、中学校では「音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する」ことを目標の中に示した。そして、小・中・高等学校の各学校段階に応じて、言葉で表す、言葉で説明する、批評するなどの活動を取り入れることによって、鑑賞の学習本来の目標を実現することを目指している。

これらを踏まえ、創作、鑑賞のいずれの学習においても、音楽がどのように形づくられているかを捉え、音楽を形づくっている要素の働きによってどのような雰囲気や表情が生み出されているかを感じ取る力を高めることを大切にし、子どもが、実際に音楽をつくる喜びを、また、主体的・創造的に味わって聴く喜びを実感できるように学習指導を改善充実することが実践課題の一つである。

#### (4) 我が国や郷土の伝統音楽の指導

我が国や郷土の伝統音楽の指導については、小学校では、鑑賞において「わらべうたや遊びうた」(低学年)、「和楽器の音楽を含めた我が国の音楽、郷土の音楽」(中学年)、「和楽器の音楽を含めた我が国の音楽(中略)など文化とのかかわりを感じ取りやすい音楽」(高学年)を教材選択の観点として示した。また、配慮事項に、音楽づくりについては「拍節的でないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとらわれない音階などを児童の実態に応じて取り上げるようにすること」を示した。

中学校、高等学校では、長唄、民謡などの「我が国の伝統的な歌唱」の表現活動を行うこと、また、鑑賞領域における教材として「我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽」のうちから指導のねらいに適切なものを取り扱うように示した。

これらを踏まえ、各学校段階、子どもの発達の段階などに応じて、表現と鑑賞の両領域において我が国や郷土の伝統音楽の学習を充実することも実践課題の一つである。

#### (5) 言語活動を取り入れた指導

言語活動については、各学校段階に応じて〈音楽の表現や鑑賞の学習を充実するために〉音楽教育の特性に即した言語活動等を適切に取り入れた指導を工夫することが求められる。このことについても実践課題の一つである。

## Ⅱ 実践課題への対応とこれからの学習評価・指導計画

### (1) 実践課題を踏まえた取組

今年度、新学習指導要領の全面実施を迎えた小学校、また、これから全面実施を迎える中学校、高等学校においても、その趣旨等を改めて確認し一層の理解を図るとともに、前述した実践課題である、

- ・学習指導要領の内容構成を踏まえ、すべての子どもが学習する内容を明確にした指導計画を作成し、授業に生かすこと、
- ・創作と鑑賞の学習指導を改善充実すること、
- ・我が国や郷土の伝統音楽の学習を充実すること、
- ・音楽の学習を充実するために言語活動を適切に取り入れること

については、重点的に実践研究を進めていただきたい。

### (2) これからの学習評価

新学習指導要領の趣旨を生かした学習指導を行い、その学習状況について子ども一人一人を適切に評価するため、観点別学習状況の評価の観点(以下「観点」という)を「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「音楽表現の技能」、「鑑賞の能力」とした。これらの観点名は、小・中・高等学校に共通する。

小学校では本年度から、中学校では来年度から、表現領域の学習状況は「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「音楽表現の技能」の3つの観点で、鑑賞領域の学習状況は「音楽への関心・意欲・態度」、「鑑賞の能力」の2つの観点で評価をする。なお、高等学校では通常、生徒指導要録に観点ごとの評価を記載しないので、新学習指導要領に基づく指導を行った場合は、本年度においても新しい観点を踏まえた評価を行うことができる。

このうち「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」は、それぞれの観定の趣旨に《音楽的な感受》に相当する〔共通事項〕(事項ア)の内容を位置付けている。(この考え方は高等学校においても同様である。)

したがって、「音楽表現の創意工夫」では、《音楽的な感受》に基づきながら音楽表現を工夫し、どのように音楽で表すかについて思いや意図をもっている状況を、「鑑賞の能力」では、《音楽的な感受》に基づきながら楽曲の特徴や演奏のよさなどを考えたり、解釈したり価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている状況を把握することが大切である。

また、実際の学習評価にあつては、評価規準に基づいて子ども一人一人の学習状況をA・B・Cで判断し、その結果を記録に残す評価を行う場面や回数等が多過ぎると、教師にとって評価をすることが過度な負担となることが懸念される。

一方、教師は子どもの状況を常に把握しながら授業を進め、様々な状況に応じた工夫のある指導を行い、子ども一人一人の学習が充実するように努めている。

そこでこれからは、後者のような形成的な評価や工夫のある指導を十分に行う中で、結果を記録に残す評価を行う場面や回数等を精選し、焦点を絞って学習指導の展開の中に位置付けることが重要となる。

### (3)これからの指導計画

題材ごとの指導計画を作成する際は、意図的・計画的に学力を育成する視点から、

- ・題材の目標、ねらい
- ・学習指導要領の指導事項〔〔共通事項〕は、題材の学習全体を貫いて重点となる音楽を形づくっている要素〕、指導内容(全ての子どもが学習する内容)
- ・教材(ねらいに適した音楽的な特徴等)
- ・(題材に即した)評価規準
- ・実際の学習活動の展開と評価規準の位置付け及び評価方法

などのそれぞれを明確にするとともに、全体が一貫性をもった計画となるように工夫する必要がある。

取り扱う学習指導要領の指導内容の視点から、題材構成については次の3つのタイプが考えられる。

- a 「特定の領域・分野のみで構成する題材」(例：歌唱のみ、鑑賞のみ)
- b 「表現領域における複数の分野で構成する題材」(例：器楽と創作)
- c 「表現領域と鑑賞領域を関連付けて構成する題材」(例：歌唱と鑑賞)

これらのうち、b、cのタイプについては、音楽的な感受に相当する〔共通事項〕を複数の領域・分野の指導事項を共通に支えるものとして位置付けるようにする。そこで、題材の学習全体を貫いて共通に取り扱う音楽を形づくっている要素（学習の重点となる幾つかの要素）を明らかにしておくことが大切である。また、cのタイプについては、鑑賞の学習を質的に充実する視点から、例えば、次のⅠ～Ⅲのように学習指導を展開することが考えられる。

#### Ⅰ 導入の段階

教材曲の一部を表現したり聴いたりする体験を通して、当該題材で学習する内容（指導内容）に対する興味・関心をもつとともに、題材の学習全体で共通に取り扱う音楽を形づくっている要素（要素の知覚とそれらの働きが生み出している雰囲気などの感受）を意識できるようにする。

#### Ⅱ 次の段階

音楽表現のねらいに即した教材を用いて、Ⅰの段階で意識した音楽を形づくっている要素の知覚・感受を深めながら、音楽表現の創意工夫や技能に係る力を育み、主体的に音楽表現を追求することができるようにする。

#### Ⅲ 更に次の段階

鑑賞のねらいに即した教材を用いて、ⅠやⅡの段階で興味・関心をもったり、知覚・感受を深めたりしたこと、さらには、音楽表現を追求した体験なども生かしながら、自分なりに言葉で表す・批評するなどの活動を行い、音楽のよさや美しさを主体的、創造的に味わって聴くことができるようにする。

また、年間指導計画等を作成する際は、題材同士の関連性や発展性なども十分に考慮することが大切である。

「(2)これからの学習評価」で述べた新しい観点に基づく効果的・効率的な学習評価の在り方を検討・工夫していくことが、新学習指導要領の趣旨を生かした指導計画の作成や実際の学習指導の改善充実を促していくことにもなる。

#### (4)おわりに

冒頭に述べたように、新学習指導要領は〈指導のねらいや手立てを明確にし、子どもが感性を高め、思考・判断し、表現する一連の過程を大切にした学習指導〉を重視している。

例えば、子どもが学習する内容に関心をもち、感じ取ったことを基に自ら考え、「私は、このように音楽で表したいな」のように思いや意図をもって音楽表現をしたり、「この音楽には、このようなよさがある」のように価値を判断しながら味わって聴いたりする学習となるようにしていきたい。

こうした学習に子どもが主体的に取り組み、音楽の目標を真に実現していくため、今、指導と評価の改善充実を図っていく貴重な時期にある。

評価の観点とその趣旨の新旧（小学校）

「A表現」領域（小学校）

新	観点	音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の 技能
	趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組みようとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。
現行	観点	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受 や表現の工夫	表現の技能
	趣旨	音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする。	音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫し、生かしている。	音楽を表現するための基礎的な技能を身に付けている。

「B鑑賞」領域（小学校）

新	観点	音楽への 関心・意欲・態度	鑑賞の能力	
	趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組みようとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている。	
現行	観点	音楽への 関心・意欲・態度	音楽的な感受 や表現の工夫	鑑賞の能力
	趣旨	音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする。	音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫し、生かしている。	音楽を楽しく聴取、鑑賞し、そのよさや美しさを味わう。

評価の観点とその趣旨の新旧（中学校）

「A表現」領域（中学校）

観点	音楽への 関心・意欲・態度
趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。



観点	音楽への 関心・意欲・態度
趣旨	音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする。

現行

音楽表現の 創意工夫	音楽表現の 技能
音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付けている。



音楽的な感受 や表現の工夫	表現の技能
音や音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫し、生かしている。	音楽を表現するための基礎的な技能を身に付けている。

「B鑑賞」領域（中学校）

観点	音楽への 関心・意欲・態度
趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。



観点	音楽への 関心・意欲・態度
趣旨	音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする。

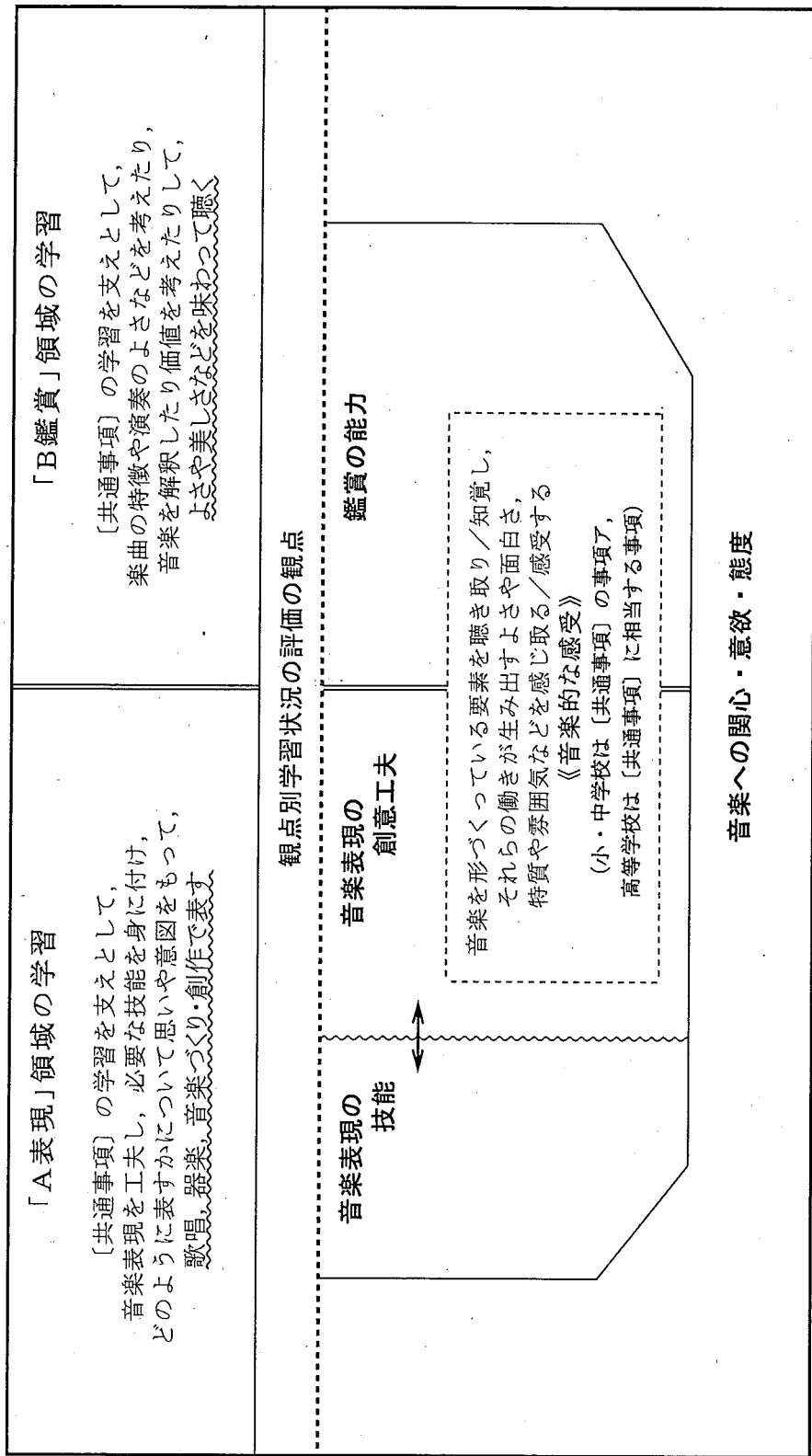
現行

鑑賞の能力	鑑賞の能力
音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わって聴いている。	



音楽的な感受 や表現の工夫	鑑賞の能力
音や音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫し、生かしている。	音楽を楽しく聴取、鑑賞し、そのよさや美しさを味わう。

これからの音楽の学習指導とその評価(イメージ図)



【新しい学習評価のポイント】

- ・ 《音楽的な感受》(小・中学校は〔共通事項〕の事項了、高等学校は〔共通事項〕に相当する事項)は「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」に共通して位置付けられ、「A表現」と「B鑑賞」それぞれの学習を支えるとともに、両領域の関連を図る上でも鍵になる。
- ・ 「A表現」の学習では、図に $\longleftrightarrow$ で示したように、「音楽表現の創意工夫」に係る力と「音楽表現の技能」に係る力を相互にかかわらせながら伸ばしていく。
- ・ 「音楽への関心・意欲・態度」と他の三つの観点は密接に結び付いており、学習内容に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする意欲や態度をはぐくむことが、歌唱、器楽、音楽づくり・創作で表したり、よさや美しさなどを味わって聴いたりする学習を意味あるものにする。